初めて特別支援学級を担当する先生のための

スタートガイド

令和２年３月
和歌山県教育センター学びの丘

初めて特別支援学級を担当する先生へ

　この資料は、特別支援学級の子供たちとの出会いが、よりスムーズになるよう、４月の学級担任の決定から、始業式・学級開きまでの動きにしぼって作成しました。
　活用に当たっては、まずこの資料を読んで大まかな流れをつかんでください。そして、もっと詳しく知りたい場合は、巻末のウェブサイト等を参考にしてください。

　なお、特別支援学級の学級経営は、子供の実態・学校の状況により様々です。実際の準備に当たっては、所属校の管理職や同僚の先生方と相談の上、実情に合わせて進めてください。

登場人物

熊野先生
経験豊富な
自閉症・情緒障害
特別支援学級担任

牟婁さん
３年生
知的障害特別支援学級

伊都先生
初めて特別支援学級
（知的障害）を担任

校長先生

教務主任

交流学級担任

特別支援教育
コーディネーター

前年度担任

もくじ

特別支援学級の授業開始までに必要な準備は、通常の学級と同じものから、特別なものまで様々です。

ここからは、ある小学校において、初めて特別支援学級を担当する伊都先生（知的障害特別支援学級）が、経験豊富な熊野先生（自閉症・情緒障害特別支援学級）や特別支援教育コーディネーターの先生からアドバイスを受けながら、新年度の準備をすすめる様子をみてみましょう。

ある小学校における、授業開始までのスケジュール例

令和〇〇年

４月	行事	おもな準備	ページ
１日（月）	職員会議	学級編制・学級担任・教室の決定	Ｐ１
		申し送り事項の確認（経営方針・交流及び共同学習）	Ｐ２
２日（火）	職員会議	教室づくり	Ｐ３、４
		時間割の調整	Ｐ５
３日（水）		交流学級との打合せ（申し合わせ・予定の確認）	Ｐ６
		特別支援学級担当による会議①（連絡ノート・学級だより）	Ｐ９
４日（木）		引き継ぎ（資料の確認・会議）	Ｐ10
５日（金）		特別支援学級担当による会議②（始業式・入学式・学級開きの準備）	Ｐ11
６日（土）			
７日（日）			
８日（月）	始業式	授業の開始	Ｐ12
９日（火）	入学式		
10日（水）		交流学級における児童生徒の様子観察	Ｐ13

コラム…Ｐ７、８

おわりに…Ｐ14

学級編制・学級担任・教室の決定

第１回職員会議です。学校長から学級担任が発表されました。熊野先生は、自閉症・情緒障害特別支援学級の担任になりました。伊都先生は、初めて知的障害特別支援学級を担当することになりました。

伊都先生は初めての担任だから、熊野先生よろしく頼みますよ。

まずは、これまでの子供の記録があるので、それを読んでイメージをつかみましょう。

お願いします！

児童生徒の記録がある資料等

・指導要録
・個別の教育支援計画
・個別の指導計画

・その他引き継ぎ資料
- ●家庭環境調査資料（家族情報を保護者が記載したもの）
- ●通知表の写し
- ●就学前の施設や関係機関からの引き継ぎ資料
- ●個人の記録（前年度担任が作成）

前年度担任から得られる情報も大切です。できるだけ引き継ぎの時間をとってもらいましょう。

※本県では個別の教育支援計画として「つなぎ愛シート」を作成しています。
和歌山県教育委員会ウェブページ参照：https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500200/d00153525.html

申し送り事項の確認（経営方針・交流及び共同学習）

特別支援学級担任として、学校全体で共有したいこと（〇印）を次回の職員会議で伝えます。伝えたい内容（・印）については、管理職や特別支援教育コーディネーターとよく相談して決めましょう。

交流学級の先生との連携は大切です。子供の実態に応じた交流ができるよう、学校全体で共有しましょう。

特別支援学級の子供に限らず、学校全体で子供を育てていくようにしましょう。

職員会議で共有したいこと（〇印）と伝えたい内容（・印）（例）

〇特別支援学級の子供たちについて
- 名前、交流する学級、交流学級で学ぶ教科の確認
- 個々の児童生徒に関する配慮事項の説明
  （障害の状態・アレルギー等の病気の状態・行動の特徴等）

〇交流学級担任にお願いすることについて
- 名簿作成、座席、靴箱、傘置き場、ロッカー等の配置
- 日直活動、係活動、班活動等への参加
- 学校行事等への参加体制
- 週予定の調整
- 交流学級で学習する授業の評価方法
- 教材の購入及び集金の方法
  （例：教材を交流学級で購入し、集金は特別支援学級で行う）

〇年度当初の予定について
- 始業式、入学式への参加体制
- 家庭訪問の体制
  （例:年度当初の家庭訪問は、交流学級担任と一緒に訪問することが望ましい）

〇災害時の対応について
（避難経路・誘導体制の確認、交流及び共同学習中の対応の確認）

等

特別支援学級に在籍する子供が交流学級で活動することで、障害のある子供もそうでない子供も、多くのことを学ぶことができます。

これらの活動がより有意義なものになり、交流学級においても自分たちの居場所がしっかりと保障されるよう、学校全体でそのあり方について共有しておきたいものです。

また、新しい先生にもよくわかるよう、慣例となっていることでも大切なことはしっかりと言葉や文書で伝えましょう。

情報共有については、校務支援システムなど有効な方法についても検討してみましょう。

教室づくり

次に二人は教室の準備を始めました。教室の環境は特別な支援が必要な児童生徒にとって、とても大切なものです。教室づくりの工夫点については、通常の学級と少し違うようです。

特別な支援が必要な子供たちが学んだり生活したりする上での困難さは、環境に大きく左右されます。

子供にとって、教室環境はとても大切なものですね。

教室づくりのポイント

①活動と場所の一致

学習、着替え、遊びなど、一つ一つの活動ごとにそれぞれ行う場所を決める。

活動と場所を一致させることで、「この場所では〇〇する」ということを伝えることができます。

②余暇や休憩時に利用できるスペースの確保

実態に応じて、畳やカーペットなどを敷いてリラックスできる場所をつくる。

がんばる所とリラックスする所をわかりやすく伝えることで安心して過ごせます。

③安全への配慮

車いすや歩行の妨げになる物は置かない。突起物にはカバーをする。

危険は思いもよらないところに潜んでいます。子供の行動を予測して先手を打ちます。

④活動しやすい動線

机やロッカー、提出物用のかごなどの配置を工夫する。

登下校の準備や、歯磨き等、日常生活上の一連の動きがスムーズに行えるよう環境を調整します。

⑤置き場所の表示

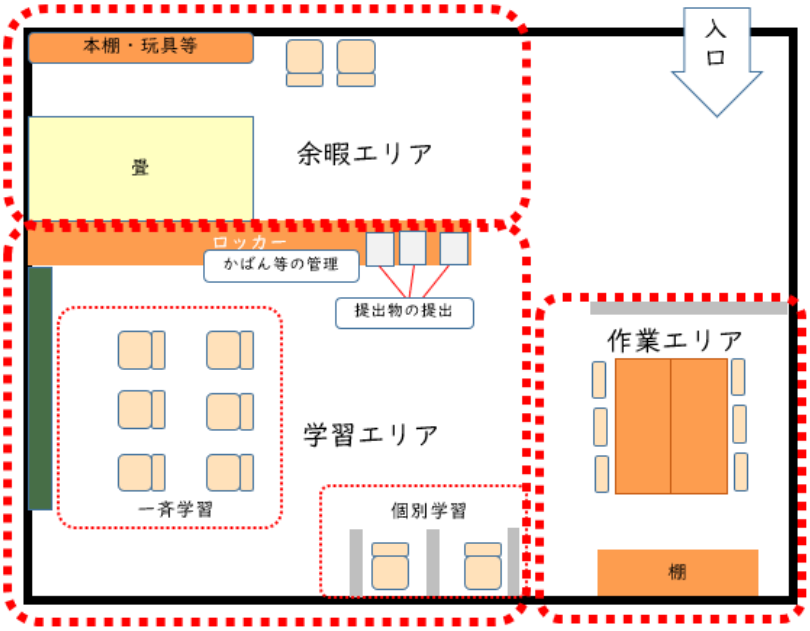
ロッカーや棚に入れる用具などがわかるように、名前のラベルや写真を貼っておく。

文字の他、写真、色や形による一致などわかる工夫は色々あります。

秋田県総合教育センター　特別支援学級新担任の手引き【改訂版】より一部改変
http://www.akita-c.ed.jp/~ctok/sintantebiki2017.pdf

教室づくりにおいても、子供の実態把握に基づいて工夫することが大切です。また、うまくいかないことがあったら、積極的に見直しましょう。

教室づくりの例

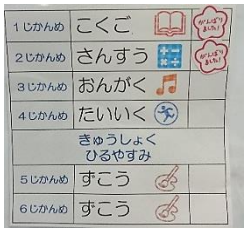


掲示物などの環境整備の例

- 時間割
（全体の動き、個人の動き）
- 所有者がわかる工夫
- 荷物の置き場がわかる工夫
- 一連の動作がわかる工夫
（朝の準備・日直の仕事）
- やりとりや気持ちの理解についての手助けとなる工夫

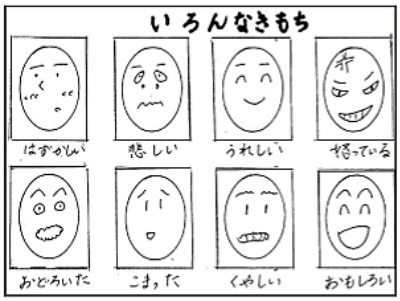
等

・時間割の工夫（１週間の見通し・１日の見通し）



・所有者がわかる工夫「〇〇さんのもの」
・ロッカーなど荷物の置き場がわかる工夫

・やりとりや気持ちの理解についての手助けとなる工夫



・何をすればよいかがわかる工夫
（朝の準備・日直の仕事）

画像等引用　和歌山県教育委員会　発達障害児事例集より（一部改変）
http://www.wakayama-edc.big-u.jp/tokusi/jirei2009.pdf

学習においては、余計な刺激を取り除く配慮も大切です。
個別の学習やグループでの学習など、多様な学習形態も考えられます。
子供たちにとって**「安心」「楽しい」「わかりやすい」**教室にすることが、先生の工夫の見せ所です。

時間割の調整

教務主任の先生が、時間割の相談に来てくれました。時間割の作成に当たっては、交流学級と行う授業の調整や、特別支援学級の児童生徒全員で行いたい授業等を含めて検討する必要があります。

特別教室の使用割り当て、専科授業の割り当て等も含め、両学級の希望を聞いて調整します。

体育は着替えの時間が必要だろうから、大休憩後の３時間目がいいですね。

学級活動・生活単元学習は、必ず全員がそろった状態で授業がしたいです。

時間割調整の例

	月	火	水	木	金
1	算	国	算	国	国
2	国	学	図	生	算
3	体	体	図	算	国
4	国	国	国	音	生
5	音	生	体	国	道
6		算			

交流の学級（２年）

	月	火	水	木	金
1	算	国	算	国	国
2	国	自立	図	生	算
3	体	体	図	国	国
4	国	算	国	音	生
5	音	生	体	自立	道
6		学			

知的障害特別支援学級（２年）

特別支援学級の時間割を作成する際は、交流学級へ参加することを意識し、交流学級と同じ時間割を作成します。

また、子供の実態に応じて自立活動の時間を設定しています。

特別支援学級の中で、異学年で時間割（教科）を合わせる場合もあります。

どちらの時間割が望ましいか、取り組みやすいか等は子供の実態、学校の状況によります。

留意点

交流学級で予定している授業でも、状況によっては個別に対応する必要がでてくる場合もあります。子供の実態を踏まえ、１年を見通して計画しましょう。

個々の子供たちの学習ニーズを明確にもち、その達成のために調整を行うようにしましょう。

交流学級との打合せ（申し合わせ・予定の確認）

交流及び共同学習が円滑に行われるよう、特別支援学級担任と交流学級担任との打合せを行います。

牟婁さんが、交流学級でもみんなといっしょにがんばれるポイントをお伝えします。

おともだちと、いっぱいべんきょうしたいな！

牟婁さんが、安心して交流学級で過ごせるよう、話し合いましょう。

交流学級担任との打合せ（例）

・交流及び共同学習の意義、ねらいの確認

・子供の様子
（困難さだけではなく、**長所**や「**こうすればうまくいく**」という具体例も）

・子供の学習上の留意点の確認
（交流学級で学ぶ際の**引き継ぎ方法**、遠足やお楽しみ会等の**参加方法**など）

・配付物、集金等の役割分担の確認

・障害理解教育
（交流学級の子供に障害特性等について伝える機会と、その内容について）

・当面の予定の確認

特別支援学級で学ぶ子供にとって交流学級は、同年代の多くの子供たちと学び合う貴重な機会ですが、同時に不安や緊張が伴う場合もあります。子供たちが安心できるよう、しっかり打合せしておきたいものです。

例えば、交流学級の先生は学級内において温かい人間関係づくりに努めるとともに、「特別な支援の必要性」の理解を進めたり、お互いの特徴を認め合い、支え合う関係を築いていくことが大切になります。

交流及び共同学習の意義

コラム１

我が国は、障害の有無にかかわらず、**誰もが相互に人格と個性を尊重し合える共生社会の実現を目指しています**。

幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校（以下「小・中学校等」という。）及び特別支援学校等が行う、障害のある子供と障害のない子供、あるいは地域の障害のある人とが触れ合い、共に活動する交流及び共同学習は、**障害のある子供にとっても、障害のない子供にとっても、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となるなど、大きな意義を有するものです**。

交流及び共同学習は、**相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むことを目的とする交流の側面**と、教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面があり、この二つの側面を分かちがたいものとして捉え、推進していく必要があります。

交流及び共同学習の内容としては、例えば、特別支援学校と小・中学校等が、学校行事やクラブ活動、部活動、自然体験活動、ボランティア活動などを合同で行ったり、文通や作品の交換、コンピュータや情報通信ネットワークを活用してコミュニケーションを深めたりすることなどが考えられます。これらの活動により、各学校全体の教育活動が活性化されるとともに、子供たちが幅広い体験を得、視野を広げることで、豊かな人間形成に資することが期待されます。

文部科学省ウェブサイト　「交流及び共同学習ガイド（2019年3月改訂）」より（抜粋・一部改変）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/1413898.htm

共生社会の実現のために、インクルーシブ教育システムの構築が進められています。インクルーシブ教育システムの大切なポイントは、以下のとおりです。

・障害のある子供が、自立し社会参加することができるよう、社会全体の様々な機能を活用し、十分な教育が受けられるようにすること。

・障害のある子供が、地域社会の中で積極的に活動し、その一員として豊かに生きることができるよう、可能な限り地域で共に学ぶことができるよう配慮すること。

・障害のない子供が、障害のある人や子供と共に学び合い生きる中で、公平性を確保し、社会の構成員として基礎を作っていくことができるよう、障害者理解を推進すること。

引用：中央教育審議会初等中等教育分科会（２０１２）「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」

障害理解教育

コラム２

共生社会の実現に向けては、だれもがお互いに尊重し、支え合い、多様な在り方を認め合えることが必要です。ここでは、通常の学級に在籍する児童生徒が、障害について理解する機会の例を紹介します。

＜特別支援学級との交流を通して＞

・通常の学級の児童生徒に特別支援学級の教室を案内する。
（配置や教材・教具が異なっていても、学びの場であることは同じ）

・特別支援学級の児童生徒が遊びを企画して、通常の学級の児童生徒を招待する。
（特別支援学級の児童生徒の得意なことを生かした企画）

・特別支援学級の児童生徒と、通常の学級の児童生徒が共同で活動する。
（例：収穫したサツマイモを使ったお菓子づくり、給食を一緒に食べる）

＜学校全体での交流を通して＞

・全校児童生徒縦割りグループ活動を通して行う。
（例：掃除、児童会･生徒会活動）

＜学級や学年での学習活動を通して＞

・絵本やDVD等の教材を通して行う。
・体験活動や当事者の話を聞く機会を通して行う。
（例：聴覚障害･視覚障害･車椅子体験等）

交流学級の児童生徒においては、発達の段階に応じて、障害特性に応じた関わり方を学ぶこと、共に活動することを通して情動的交流を深めることが大切です。
また、特別支援学級の児童生徒においては、自分たちの得意な面を生かした活動を取り入れることによって、自信をもって関わることができます。

特別支援学級担当による会議①（連絡ノート・学級だより）

特別支援学級では、保護者との連携をより密に行うため、学級だよりの他に、連絡ノートを作成する場合があります。

連絡ノートは、子供の様子を担任から伝えるだけでなく、保護者からの情報を知ることができるのがいいですね。

学級だよりは、学級全体の取組や予定を伝え、個々の様子については連絡ノートで伝えましょう。

連絡ノート	学級だより
・１日の様子 （学習、休み時間の様子等） ・友達との関わり ☆子供の困っている様子ばかりではなく、がんばっている様子等も積極的に伝えましょう。	・学級での学習の様子 （教科の学習、行事等） ・今後の予定 ・持ち物等の通知 ☆学習の様子を伝えることを通して、学級として大切にしたいこと等を伝えます。

連絡ノートの様式例

月　　日　　曜日		
明日の予定と連絡事項		
朝		
1		
2		
3		
4		
5		
6		
家庭での様子		学校での様子

明日の予定と準備物等を記入する。

家庭での様子を左欄に、学校での様子を右欄に記入する。

特別支援学級に在籍する子供は、学校での出来事、自分の気持ちをうまく伝えることができない場合があります。連絡ノートは、子供が家庭で学校の様子を伝えるための助けになります。

また、学校と家庭が指導の方針を共有し、協力して取り組むための大切なツールにもなります。

引き継ぎ（資料の確認・会議）

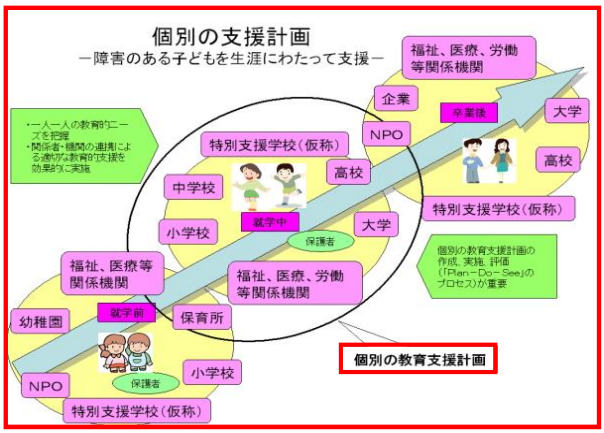
今日は、前年度担任の先生と、引き継ぎの時間をもちます。時間が限られているので、重要な部分にしぼって、子供の情報を聞き取りましょう。

計画や記録について、より詳しくお伝えします。

個別の教育支援計画や、個別の指導計画は、系統的な指導を行う上でも、とても大切な資料です。

資料は文字として記されているので読み返すことができ、とても参考になりますね。

個別の教育支援計画	個別の指導計画
保育所・幼稚園から小学校・中学校・高等学校まで将来を見通し、一貫した支援を行うもの（縦の連続性）。 また、福祉機関や医療機関とも支援方針を共有することをめざすもの（横の連続性）。	教育課程における個人の指導目標や手立て、評価を記したもの。 障害のある児童生徒一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するもの。



個別の教育支援計画のイメージ図

計画→実践→評価→改善のＰＤＣＡサイクルを繰り返すことが大切です。

※詳しくは、別掲「初めて特別支援学級を担当する先生のための自立活動の指導」を参照してください。

子供の引き継ぎは、「点」で終わるのではなく、以後も必要に応じて相談できる「線」や「面」の関係を築けるといいですね。

特別支援学級担当による会議②（始業式･入学式・学級開きの準備）

いよいよ、始業式が近づいてきました。二人は、始業式や学級開きに向けて、アイデアを出し合うことにしました。

この１年、どんな学級にしたいのか、何を大切にしたいのかを、子供にわかりやすい形で伝えましょう。

私は、一人一人を大切にする学級にしたいです。しっかり遊んだり、話を聞いたりして子供と信頼関係を築きたいと思います。

子供が安心して過ごせるためには、担任との信頼関係の構築が何より大切ですね。

始業式や入学式に配慮することの例

〇登校したら・・・
- 担任の自己紹介をする。
- 子供と一緒に座席やロッカー、靴箱等の確認をする。
- 式の流れを伝えておく。

〇式中は・・・
- 子供の様子を観察する。不安が大きい場合は状況に応じて子供の側に控える等の配慮を行う。

〇式後は・・・
- 教科書等配付物の確認を行う。
- 明日以降の予定や持ち物の確認を行う。
- 時間があれば、交流学級の見学等も行う（座席やロッカーの確認）。

学級開きでの活動例

〇学級担任の自己紹介をする。

〇子供同士で自己紹介をする。
- 名前、好きなこと、得意なこと 等

〇学級目標を伝える。
（子供たちと考えることもあります。）

〇個人目標を決める。

〇学級のルールを伝える。

〇お互いの緊張をほぐすためのミニゲームをする。

学級開きでは、子供が明日からも「学校へ来るのが楽しみだな」と思えるよう、ふれあい活動や楽しめる活動を取り入れてみましょう。ほめる機会を多くもつことは、子供と先生の信頼関係を築くチャンスにもなります。

１年間を過ごす学級が、安心できる場であることを印象づけられるよう、あたたかく迎えてあげましょう。

授業の開始

特別支援学校や特別支援学級の教育課程には、自立活動が位置づけられています。また、知的障害のある場合には「各教科等を合わせた指導」をすることが可能です。

大切なことは、個々の児童生徒の実態を的確に把握し、授業づくりを行い、必要に応じて工夫・改善を行うことです。

自立活動の領域

1　健康の保持
2　心理的な安定
3　人間関係の形成
4　環境の把握
5　コミュニケーション
6　身体の動き

※これらすべてを指導する必要はなく、子供に応じて適切に内容を選択し、指導することになります。

自立活動については、「初めて特別支援学級を担当する先生のための自立活動の指導」を参照してください。

実態に応じて各教科の目標を設定する手続き（知的障害のある児童生徒の例）

①子供の実態を、当該学年の目標や内容、または、当該学年より前の各学年の目標や内容に照らして検討する。
②①の学習が困難又は不可能な場合は、知的障害のある特別支援学校の目標及び内容に照らして検討する。
③児童の習得状況や既習事項を踏まえ、卒業までに育成をめざす資質・能力を検討し、教育内容を十分見極める
④各教科の目標や内容の系統性を踏まえて、教育課程を編成する。

授業づくりにおいて大切なのは、実態把握です。

授業における観察例

○好きなこと、得意なことを知る

・これらは、授業を考える上で「強み」となります。
教材や題材等に取り入れると子供の意欲が高まります。

○苦手なことと、「こうすればできる」状況を知る

・学習上や生活上の困難の状態に関わり、授業において配慮すべき事柄を観察しましょう。
支援の成功例を記録しておきましょう。

○学習の到達状況を知る

・学習履歴については、個別の指導計画や指導要録等の資料に記されています。これらの情報をもとに、子供の学習状況を観察し、新たな情報に更新していきましょう。

自分一人の観察で見立てることなく、特別支援教育コーディネーター等複数の教員で見立てるよう心がけましょう。

交流学級における児童生徒の様子観察

交流学級で学習する特別支援学級の子供たちの様子もしっかり観察しましょう。

牟婁さんは交流学級でがんばっていますね。その分、特別支援学級ではリラックスさせてあげることも必要かも知れませんね。

みんなと勉強するって楽しいな。

牟婁さんは交流学級でも自分らしさを存分に発揮していますね。

交流学級での様子を参観するときのポイント

〇交流学級担任との様子
　・指示や発問が理解できているか。

〇子供同士の関わり合いの様子
　・やりとりがスムーズに行われているか。

〇学習の様子
　・集中や意欲の様子はどうか。
　・つまずきの様子はどうか。

等

担任する子供と交流学級の担任、まわりの子供たちとのやりとりの様子を客観的に観察することで、新たな課題や、子供の成長を知ることができます。
見つかった課題は、特別支援学級での各教科や自立活動の時間に取り組むこともできます。

おわりに

学校生活がはじまり、児童生徒と共に学ぶ中で、もっと知りたいことがたくさん出てくることと思います。そんな時は、次のウェブサイト等を参考にしてみてください。

障害について もっと知りたい

国立特別支援教育総合研究所
発達障害教育推進センター
http://icedd.nise.go.jp/

※動画配信により、障害等についての講義を受けることができます。

教材や実践事例について 知りたい

国立特別支援教育総合研究所
支援教材ポータル
http://kyozai.nise.go.jp/?page_id=13

インクルＤＢ
（インクルーシブ教育システム構築支援データベース）
http://inclusive.nise.go.jp/

教育課程の編成について 知りたい

国立特別支援教育総合研究所

小学校・中学校管理職のための特別支援学級の教育課程編成ガイドブック－試案－